

人文研アカデミー
2025
シンポジウム

高木博志 Hiroshi Takagi (元京都大学人文科学研究所)
「月の輪古墳と「国民的歴史学運動」再考」

紙屋牧子 Makiko KAMIYA (玉川大学)

「映画『月の輪古墳』を読み直す」

福家崇洋 Takahiro FUKE (京都大学人文科学研究所)

「戦後日本共産党の文化政策」

須永哲思 Satoshi SUNAGA (京都大学人文科学研究所)

「郷土教育運動と国民的歴史学運動の邂逅・亀裂
—社会科教科書『あかるい社会』と月の輪古墳」
(タイトルはすべて仮題です)

近現代天皇制を 考える学術集会

— 戦後史としての月の輪古墳 —

2026年2月11日
(水休)

13時～17時30分(12時30分開場)

芝蘭会館 稲盛ホール

(京都大学医学部キャンパス)

<https://www.zimbun.kyoto-u.ac.jp>

お問い合わせ:

京都大学人文研アカデミー E-mail:
kyodai.z-academy@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

京都大学人文科学研究所 総務掛



JINBUNKEN ACADEMY



近現代天皇制を考える学術集会

—戦後史としての月の輪古墳



映画『月の輪古墳』人文研所蔵



この時私は正しい脚本の
「史実をもとめて、いまし
てさくらんばをなして、
た岡山県鶴岡村の人々と
それを手掛ける鳥井義人
との間から湧き出た壁画
製作運動によって作られ
ました」



櫛原宮で初代神武天皇が即位した神話にもとづく「建国記念の日」が、1967年に公布されました。1872年にはじまる戦前の紀元節は、記紀神話に基づく天皇制を、学校行事をはじめ社会へと浸透させる役割を果たしました。「建国記念の日」公布から今日までの57年のあいだに、反対運動が継続する一方で祝日として定着してきました。つねに現代に向き合ってきた人文科学研究所では、この日に近現代天皇制を学術的に考え続けたいと思っています。

今年度は、戦後の「国民的歴史学運動」として著名な「月の輪古墳」とその発掘運動に焦点をあてます。この円墳は岡山県久米郡美咲町飯岡（当時は勝田郡飯岡村）の大平山山頂にあり、

1953年に発掘されて存在が明らかになりました。この発掘運動は、考古学の専門家だけでなく、地域の民衆が「自ら歴史を掘り起こす」活動として実践されたもので、敗戦前の「皇国史観」と異なる古代史像に結び付くだけでなく、「歴史のあり方」を問い合わせ直すきっかけともなりました。そして、1955年の大阪府百舌鳥古墳群の「いたすけ古墳」の保存運動にも波及していました。戦後史における月の輪古墳などを歴史研究や映像上映を通して見つめ直すことで、「歴史とは何か」「誰のための記録か」「地域と学問・教育の関係はどうあるべきか」などのテーマについて考えを深めたいと思います。

高木博志 Hiroshi TAKAGI
(元京都大学人文科学研究所)

専門：日本近現代史(天皇制、文化史)

主著：「天皇」と民主主義——世界遺産登録と大山古墳立入り観察から」「世界」(2025年10月号)、「近代天皇制と伝統文化——その再構築と創造」(岩波書店、2024年)

紙屋牧子 Makiko KAMIYA
(玉川大学)

専門：映画学

主著：『戦争と占領の日本映画史——歴史の「闇」を捉え返す』(青土社、2025年)、「皇太子渡欧映画」と尾上松之助——NFC所蔵フィルムによる大正から昭和にかけての皇室をめぐるメディア戦略』(東京国立近代美術館研究紀要)第20号(2016年)

想史講義』(筑摩新書、2022~23年)

福家崇洋 Takahiro FUKE
(京都大学人文学研究所)

専門：日本近現代史(社会運動史、思想史、史学史)

主著：『神々の「昭和維新」——「理念としての天皇」の行方』、駒込武・高木博志編『国家神道の現代』、天皇・神社・日本人』(東京大学出版会、2025年)、(共編)『思想史講義』(筑摩新書、2022~23年)

須永哲思 Satoshi SUNAGA
(京都大学人文学研究所)

専門：近現代日本教育史

主著：『私立各種学校・京都市人文学園の歴史——「人文主義の精神に依る教育」のゆくえ』(人文学報)第1~2号、2024年6月)、「桑原正雄の郷土教育——「資本の環」の中の私達』(京都大学学術出版会、2020年)

今尾文昭 Fumiaki IMAO
(元奈良県立櫛原考古学研究所)

専門：日本考古学(古墳時代)

主著：『天皇陵古墳を歩く』(朝日新聞出版、2018年)、「古墳文化の成立と社会』(青木書店、2009年)

【会場(芝蘭会館)への行き方】

京都市バス：
201系統、206系統、31系統、65系統をご利用ください。
最寄りのバス停は
「京大正門前」になります。(徒歩2分)



*駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用下さい。

